

是云、去夜子刻八幡陣敗北、主上以下皆以没落云々、十三日今朝聞、八幡上下敗北之人々、被過南都、或又有稱東條之說、然而南都實事云々、

〔椿葉記〕同○觀三年閏二月廿日、南朝の天氣によりて、兩上皇○光嚴、新院○崇光、儲皇直仁親王八幡

の軍陣に幸しまします、南方の官軍利なくして、八幡より没落、河内國東條の城に還幸あり、同五

月に、また大和國加名生の離宮に渡御なる、

〔吉野拾遺〕下正平壬辰年の春、舊都の主上○崇光本院○光嚴新院○光嚴ともにとらはれ人とならせ玉

ひて、此山にいらせ給へるに、黒木の御所のあさましきになほそのほかにうばらからたちを、ひ

まなく植たるうちに押しこめ奉る、まことにみるめいどかなし、

〔太平記〕三十一持明院殿吉野遷幸事附梶井宮事

北畠右衛門督顯能、兵五百餘騎ヲ率シテ、持明院殿へ參リ、○中略四條大納言隆蔭卿ヲ以テ、世ノ靜

リ候ハン程ハ、皇居ヲ南山ニ移シ進ラスベシトノ勅定ニテ候ト奏セラレケレバ、兩院○光嚴、主

上○崇光東宮○仁直アキレサセ給ヘル計ニテ、兎角ノ御言ニモ及バズ、○中略御車ヲ二兩差寄、餘リニ

時刻移候ト急ゲバ、本院、新院、主上、春宮御同車有テ、南ノ門ヨリ出御ナル、○中略東寺マデハ月卿雲

客數多供奉セラレタリケレドモ、叶フマジキ由ヲ顯能申サレケレバ、三條中將實春、典藥頭篤直

計ヲ召具セラレテ、見馴ヌ兵ニ打圍マレ、鳥羽マデ御幸成タレバ、夜ハ早ホノボノト明ハテヌ、此

ニ御車ヲ駐メテ、怪シゲナル綱代興ニ召替サセ進ラセ、日ヲ經テ、吉野與賀名生ト云所へ御幸ナ

シ奉ル、

○按ズルニ、前條ニ掲グル吉野拾遺ニ、舊都ノ主上ト云ヒ、太平記ニ、兩院主上トアル主上ハ、崇

光天皇ノ御事ナレドモ、是ヨリ先觀應二年十一月、既ニ帝位ヲ廢セラレタレバ、主上ト云ヘル

ハ誤ナリ、